

- I 会議等の名称 平成 27 年度第 2 回三重県聴覚障害者支援センター評価委員会
- II 開催日時 平成 28 年 2 月 18 日（水）19:00～20:50
- III 開催場所 三重県聴覚障害者支援センター 研修室
- IV 出席者 ※敬称略

1. 委員（6 名）

櫻井 誠人（委員長） 小笠原 由起
坂下 浩 山本 啓子 （欠席：西川 隆義、森 徹雄）

2. 三重県聴覚障害者支援センター

深川 誠子（指定管理者 三重県聴覚障害者協会 会長）
山本 喜秀（指定管理者 三重県聴覚障害者協会 事務局長）
倉野 直紀（センター長、手話課派遣担当）
那須 万美子（職員、要約課、盲ろう課担当）
加藤 恵美（職員、手話課担当）
田代 慶藏（職員、支援課担当）
矢野 玲子（職員、要約課養成担当）（欠席：岡田 敦子）

V 議題

- 1. 事前質問への回答
- 2. 平成 27 年度第 3 四半期の報告

【議題 1】事前質問への回答

資料のとおり説明した。

災害支援サポーターの数については、県から毎年 100 名程度を確保するように指示があった。

【議題 2】平成 27 年度第 3 四半期の報告

要旨を配付して説明した。

(1) 字幕ライブラリー製作事業

評価委員：字幕製作の進捗状況はほぼ昨年並み。もう少し早い時期から始められないか。

センター：これまで製作した作品は関係団体の行事が多かった。一般の番組にもっと字幕を付けていきたいと考える。来年度からは早い段階で作品の提供をお願いしていきたい。

評価委員：昨年度と比べ、今年度のほうが作品自体の時間が長いのか。

センター：どれも 15 分程度で、違いはない。鳥羽水族館の作品は 2 年分をまとめていただいた。それについて現在、字幕製作作業中でスムーズに進んでいる。

(2) 字幕映像ライブラリー作品の管理と貸出

センター：達成率では厳しい状況。特に聾学校での貸出が減少傾向。見終わった作品が多い、というのが原因と考えている。新しい作品の導入で貸出数増加に期待したい。

評価委員：子ども向け作品の数はわかるか。

センター：VHS は約 100 本、DVD は約 30 本。VHS の貸出は少ない。

評価委員：最近字幕付きのテレビ放送が増えたので、センター内での貸出が減少するのは当然のこと。字幕ではなく手話を付けるのは無理なのか。特に高齢のろう者が喜ぶと思う。

センター：検討したい。

評価委員：ろう協の高齢部がセンターで集まっていると思う。聞いてみるといい。

センター：高齢部の集まりと、難聴者の手話教室で聞いてみる。

評価委員：以前、新しいものや人気のあるものを置いていると聞いた。作品の入れ替えの頻度は？

センター：新しい作品は少ない。鳥羽水族館の作品は前面に配置したい。

センター：VHSについて。貸出は少ないが場所を取っている。他県ではDVDのみの施設もある。ご意見を伺いたい。

評価委員：DVDだけでいい。VHSの再生機器がない人も多い。

評価委員：再生機器の関係で、DVDのみにしていいと思う。VHSを処分するとしたら、希望者（聴覚障害者）に譲渡するのは？

センター：処分するときは、県に届け出、承認を経た上で、情文センターへ返す必要がある。

評価委員：VHSを見るために再生機器を購入した人もいる。ただ場所を取るのでは陳列する必要はないと思う。事前予約にしてもいい。

評価委員：DVDだけでもいいと思う。図書館等では作品のケースをカラーコピーシファイルして、作品を簡単に探せるようにしているところもある。

評価委員：返却が面倒という人もいる。「郵送可」をもっとアピールすれば貸出数増加につながるのでは。

評価委員：聴覚障害者について説明する子ども向けのDVD（15分程度）があれば嬉しい。講演するときに見てもらいやすい。滋賀県の施設が作成したものは内容が少し難しい。

(3) 手話通訳及び要約筆記養成事業

①手話通訳者養成事業

津会場は第3四半期で修了し、12月の統一試験を受験した。

②要約筆記者養成事業

手書きの受講者1名が自己都合で継続できなかったが、順調に進んでいる。

(4) 盲ろう通訳介助員養成事業

今年度からの新規事業、84時間（2年間）で養成する。今年は盲ろう者の全国大会が東海地区で開催されたため遅いスタートとなった。

(5) 手話通訳者等スキルアップ研修

計画通り実施している。

盲ろう通訳介助員の研修については、現在派遣に対応している盲ろう通訳介助員には、3期に3講座、4期に1講座と現任研修を実施。

評価委員：手話と盲ろうで2講座同時に受講はできないのか。

センター：講座数が多く、受講は大変。1つの講座に集中してもらいたいと考えている。募集要項にも載せている。

評価委員：本人の負担の問題だけなら、今後検討してもらいたい。

(6) 手話通訳者等及び盲ろう者通訳介助員の派遣事業

今年度は試験的に進めており、達成できるかは微妙である。来年度はもっと工夫していきたい。

評価委員：達成できないと予算を減らされるのか。

センター：指定管理期間内は変更ない。

評価委員：現在、盲ろう者が全国大会に参加する場合の通訳介助員の旅費は、通訳介助員の自己負担。手話通訳者等の派遣では旅費が支給されている。ふだんから人との交流が少ない盲ろう者にとって全国大会は重要である。また通常の派遣でも通訳介助員の旅費は盲ろう者が負担している。盲ろう通訳介助員の派遣事業の充実をもっと考えてほしい。

センター：現在、盲ろう通訳介助員派遣事業は過渡期。今後、地域生活支援事業から個別給付に変わる可能性がある。国の様子を見ながら考えたい。

(7) 各種相談の実施

子どものこと、人工内耳、就労等の相談が増加傾向。関係機関につなげるなどして対応。

評価委員：重大な内容が増え、相談できる場ができたことはよいと思う。それをもっと報告書に反映させるとよりよいと思う。

評価委員：出張の場合、自宅へ行くのか。

センター：自宅や施設等へ行っている。高齢者などセンターに来ることが難しい場合もある。それから就労についての相談が多い。聴覚障害のために社内での意思疎通がうまくいかないケースなど。また、人工内耳の相談も増えてきている。

(8) 各種情報の発信

資料のとおり。

(9) 災害の支援に関する協定

今後は南勢地域を中心に進めていきたい。

(10) その他の事業

①日常生活用具の展示、紹介

合理的配慮の点で企業や行政からの問い合わせが増加。企業でも使えるもの等、合理的配慮に適した品を増やしたい。屋内信号装置などを体験できるような体験スペースを設置する予定。聴覚障害を持ち、製作技術を持つ方に依頼中。

②生活訓練

難聴者向け手話教室には健聴者も参加している。友人を誘い合って参加する人も。ただ、まだまだ参加者が少ない。

第2期の報告にコミュニケーション教室を掲載していなかったため、今回掲載した。

ろう者や盲ろう者対象の生活訓練事業も実施していきたい。盲ろう者通訳介助員養成講座も開催中なので内容を相談していきたい。

評価委員：日常生活用具の体験スペースについて賛成です。合理的配慮や差別解消法の相談、日常生活用具を紹介した実績を別途、カウントしていくとよい。センターの役割がより見えてくると思う。

(11) 平成 27 年度達成目標

県への報告の際、目標の達成率が重要になる。ぜひとも達成できるように取り組みたい。

(配付資料)

1. 2015 年度第 2 回評価委員会事前質問への回答
2. 第 3 四半期（10～12 月）の要旨
3. 派遣件数（月別）

以 上